

おらほの自治会 下モ平自治会 (尾去沢)



五長根公園には、昭和35年に徳仁親王(徳仁天皇)のご生誕を記

下モ平自治会は稲村橋を尾去沢方面に渡った県道のすぐ両側に広がる自治会で、昭和35年に結成しました。当自治会の活動は、自治会花壇の整備や五長根公園の管理などの環境美化活動、花見会、虫送り祭などがあります。昔は盆踊りや演芸会を行い、多くの人が参加して賑わっていましたが、年々参加者が減少し、現在はどの活動も休止しています。

今後も現在の活動を継続させつつ、休止している盆踊りや演芸会を復活させ、元気のある豊かな自治会を目指していきます。

念して桜の木を植えて以来、尾去沢小学校や生産森林組合の協力のもと植樹を続けており、現在では約500本の桜の木が植えられていて、桜が満開となる時期には圧巻の景色を見ることが出来ます。また、当自治会内には島田井戸という名水があり、昔から地域の方々から親しまれ、また、水量が豊富で災害や断水時の貴重な水源としても活用されています。誰もが安心して住める環境づくりに力を入れており、悪天候時の地域内巡回や子供たちへの声掛け・見守り活動、危険箇所の確認などを行っており、その甲斐あってか、少しずつ移り住む方が増えてきています。

産業活力課 観光交流班 ☎ 30-0248、大湯ストーンサークル館 ☎ 37-3822

明治時代になると、化学染料の登場により、鹿角紫根染・茜染は一度途絶えてしまいましたが、大正時代に栗山文次郎氏が復活させ、息子の栗山文一氏が継承しました。紫根染・茜染はとてつもない労力と時間がかかり、染め上がるまでに3〜5年、長い時には

「鹿角紫根染・茜染」は、1300年も前から伝承されてきました。かつて、鹿角の野山には日本紫草や茜がたくさん自生しており、その根を使って染める紫根染や茜染は産業として栄えました。色鮮やかで全国に比類ない染め物と言われた鹿角紫根染・茜染は、江戸時代には盛岡藩の特産品となり、朝廷や将軍家への献上品として江戸に送られていたそうです。中でも、深く鮮やかで目を奪われるような色合いの鹿角紫は、京紫や江戸紫と肩を並べる「南部紫」としてその価値を認められ、伊勢神宮や皇室へ献上されたこともありま

栗山文一郎氏が亡くなり、途絶えていた伝統の古代技法を、鹿角紫根染・茜染研究会が長い年月をかけて再現し、2021年3月によくの思いで復活宣言までこぎつけました。研究会では染め体験も定期的に開催していて、鹿角紫根染・茜染の歴史や使われている材料についてもわかりやすく解説してくれま



下モ平自治会 会長
駒ヶ峯 晴夫さん
Haruo Komagamine



誰もが安心して住める自治会を目指して

中央ヨーロッパに位置し、オーストリア・スロベニア・スロバキア・ウクライナ・ルーマニア・セルビア・クロアチアに囲まれた内陸国「ハンガリー」



HAJRÁKAZUNO!

※「ハイラー」はハンガリー語で「頑張れ」の意味

鹿角に来て3年が経ち、9月末にはハンガリーへ帰ります。日本に滞在している間に、世界中でいろいろなことがありました。が、延期された東京オリンピックも無事に終わり、来年からは祭りも元通りに開催されることを願っています。3年前の8月に鹿角に来た時は、毎日のように祭りを見過いでたかと思うほどです。どこか行きたいと思ったら、後回しにしないで行動すべきだと思えます。日本で色んなことを経験して、楽しい思い出もあれば、イベントのキャンセルが相次ぐなど悲しい思い出もありますが、写真と一緒にすべてをハンガリーに持って帰ります。



3年間お世話になりました。ありがとうございます。Koszonni! (ありがとうございます)

フェイスブック公開中。「鹿角 CIR ダンコー・アンドレア」で検索してください。



MY-SOPRON-LIFE

(私のショプロン生活) ブログ公開中 <https://my-sopron-life.blogspot.com/> ぜひご覧ください。

夏も終わりに近づいていますが、ショプロンは気温が30度を超える暑さが続いています。日本語教室が休みの間は、希望者にオンラインでレッスンを行ったり、生徒とカフェやレストランで会って日本語で話したり、ハンガリーの他の地域を旅行したり、イベントやワークショップをしたりと、充実した時間を過ごすことができました。ハンガリーでは、夏は家族でバーベキューをするのが一般的なようで、私もいろいろな家庭のバーベキューに参加させていただきました。肉や野菜の味付け、焼き加減など、家庭によってさまざまな方法があり、とても興味深かったです。暑い日に外で汗をかきながらバーベキューを食べるハンガリー人は、暑い日に鍋を食べる日本人に似ていると思いました。また、内陸国であるハンガリーや近隣の地域では海にアコガれる方が多く、夏になると湖やプールに出かける方が多いです。その中



ワークショップの様子

でも「ハンガリーの海」と呼ばれている巴拉トン湖には、毎年何十万人もの観光客が集まります。分があるので、水泳ができない人も楽しむことができます。ハンガリーの新型コロナウィルスの状況はとも良く、国民の半数以上がワクチンの接種を終えていることから、9月からは対面授業が開始できそうなので、新しい生徒たちと会えるのを心待ちにしながら、クラス編成や教材選びを始めています。新学期からも、ショプロンや日本語教室についていろいろお伝えしていきますので、よろしくお願

日本語学指導員現地レポート
第11代日本語学指導員 戸脇美夢さん
三重県出身、留学経験を経て、国際教養大学専門職大学院にて日本語教育を学び、多くの異文化交流イベントの企画・運営に携わるなど、豊富な国際交流経験を活かして渡航。

